



ボリュームまたは**qtree**のストレージ コンテナの作成

ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

ボリュームまたはqtreeのストレージ コンテナの作成	1
ONTAP NFSボリュームを作成する	1
ONTAP NFS qtreeを作成する	2

ボリュームまたはqtreeのストレージ コンテナの作成

ONTAP NFSボリュームを作成する

``volume create`` コマンドを使用してボリュームを作成し、そのジャンクションポイントやその他のプロパティを指定できます。

タスク概要

ボリュームのデータをクライアントが利用できるようにするには、ボリュームに `_ジャンクションパス_` が必要です。ジャンクションパスは、新しいボリュームを作成するときに指定できます。ジャンクションパスを指定せずにボリュームを作成する場合は、``volume mount`` コマンドを使用してSVMネームスペースにボリュームを `_マウント_` する必要があります。

開始する前に

- NFSがセットアップされて、実行されている必要があります。
- SVMのセキュリティ形式はUNIXである必要があります。
- ONTAP 9.13.1以降では、容量分析とアクティビティトラッキングを有効にしたボリュームを作成できます。容量またはアクティビティトラッキングを有効にするには、``-analytics-state`` または ``-activity-tracking-state`` を ``on`` に設定した ``volume create`` コマンドを発行します。

容量分析とアクティビティ追跡の詳細については、"[ファイルシステム分析の有効化](#)"を参照してください。"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"の ``volume create`` の詳細を確認してください。

手順

1. ジャンクションポイントを設定してボリュームを作成します。

```
volume create -vserver svm_name -volume volume_name -aggregate aggregate_name  
-size {integer[KB|MB|GB|TB|PB]} -security-style unix -user user_name_or_number  
-group group_name_or_number -junction-path junction_path [-policy  
export_policy_name]
```

``-junction-path`` の選択肢は次のとおりです：

- たとえばルートの直下には、 `/new_vol`

新しいボリュームを作成し、SVMのルート ボリュームに直接マウントされるように指定することができます。

- 既存のディレクトリの下（例： `/existing_dir/new_vol`

新しいボリュームを作成し、ディレクトリとして表現されている既存のボリューム（既存の階層内）にマウントされるように指定できます。

新しいディレクトリ（新しいボリュームの下の新しい階層）にボリュームを作成する場合（例：

`/new_dir/new_vol`)、まずSVMルートボリュームにジャンクションされた新しい親ボリュームを作成する必要があります。次に、新しい親ボリューム（新しいディレクトリ）のジャンクションパスに新しい子ボリュームを作成します。

+ 既存のエクスポート ポリシーを使用する場合は、ボリュームの作成時に指定できます。また、``volume modify`` コマンドを使用して後からエクスポート ポリシーを追加することもできます。

2. 目的のジャンクション ポイントでボリュームが作成されたことを確認します。

```
volume show -vserver svm_name -volume volume_name -junction
```

例

次のコマンドは、SVM `vs1.example.com` とアグリゲート `aggr1` 上に `users1` という新しいボリュームを作成します。この新しいボリュームは ``users`` で利用可能になります。ボリュームのサイズは750GBで、ボリュームギランティは `volume` (デフォルト) です。

```
cluster1::> volume create -vserver vs1.example.com -volume users
-aggregate aggr1 -size 750g -junction-path /users
[Job 1642] Job succeeded: Successful

cluster1::> volume show -vserver vs1.example.com -volume users -junction
```

Vserver	Volume	Active	Junction Path	Junction Path Source
vs1.example.com	users1	true	/users	RW_volume

次のコマンドは、SVM「`vs1.example.com`」とアグリゲート「`aggr1`」上に「`home4`」という名前の新しいボリュームを作成します。ディレクトリ `/eng/`` はSVM `vs1` のネームスペース内に既に存在しており、新しいボリュームは ``/eng/home`` で利用可能になります。これは ``/eng/`` ネームスペースのホームディレクトリになります。ボリュームのサイズは750 GBで、ボリュームギランティのタイプは `volume` (デフォルト) です。

```
cluster1::> volume create -vserver vs1.example.com -volume home4
-aggregate aggr1 -size 750g -junction-path /eng/home
[Job 1642] Job succeeded: Successful

cluster1::> volume show -vserver vs1.example.com -volume home4 -junction
```

Vserver	Volume	Active	Junction Path	Junction Path Source
vs1.example.com	home4	true	/eng/home	RW_volume

ONTAP NFS `qtree`を作成する

``volume qtree create``コマンドを使用して、データを格納する `qtree`を作成し、そのプロパティを指定できます。

開始する前に

- 新しいqtreeを格納するSVMとボリュームがすでに存在している必要があります。
- SVMのセキュリティ形式がUNIXで、NFSが設定されて実行されている必要があります。

手順

1. qtreeを作成します：

```
volume qtree create -vserver vserver_name { -volume volume_name -qtree
qtree_name | -qtree-path qtree path } -security-style unix [-policy
export_policy_name]
```

ボリュームとqtreeを別々の引数として指定することも、``/vol/volume_name/_qtree_name``の形式でqtreeパス引数を指定することもできます。

デフォルトでは、qtreeは親ボリュームのエクスポートポリシーを継承しますが、独自のポリシーを使用するように設定することもできます。既存のエクスポートポリシーを使用する場合は、qtreeの作成時に指定できます。また、``volume qtree modify``コマンドを使用して後からエクスポートポリシーを追加することもできます。

2. 目的のジャンクションパスでqtreeが作成されたことを確認します：

```
volume qtree show -vserver vserver_name { -volume volume_name -qtree
qtree_name | -qtree-path qtree path }
```

例

次の例では、ジャンクションパス ``/vol/data1``を持つSVM `vs1.example.com`にある`qt01`という名前のqtreeを作成します：

```
cluster1::> volume qtree create -vserver vs1.example.com -qtree-path
/vol/data1/qt01 -security-style unix
[Job 1642] Job succeeded: Successful
```

```
cluster1::> volume qtree show -vserver vs1.example.com -qtree-path
/vol/data1/qt01
```

```
          Vserver Name: vs1.example.com
          Volume Name: data1
          Qtree Name: qt01
Actual (Non-Junction) Qtree Path: /vol/data1/qt01
          Security Style: unix
          Oplock Mode: enable
          Unix Permissions: ---rwxr-xr-x
          Qtree Id: 2
          Qtree Status: normal
          Export Policy: default
Is Export Policy Inherited: true
```

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。